

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	仙台市なかよし学園		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園児一人ひとりのアセスメントを実施し個別支援計画を作成し、保護者へできるだけわかりやすく説明している	こどものアセスメントは担当だけでなく複数の職員で行うようにしている。 保護者へもわかりやすくお子さんの姿を伝え、個別支援計画に結びつくよう伝えられるようにしている。	保護者への伝え方は職員によってさまざまになっている部分もあるため、面談だけでなく日々の療育を通し保護者へ伝えられるよう職員の育成に努める。
2	遊びの工夫	こどもたちの遊びがマンネリ化にならないようにあそびの工夫をしている。こどもたちが期待できるように考えている	遊びの工夫は考えているが、遊びの展開が難しい時もある。 こどもたちがわかりやすく展開(変化)が理解できるような工夫が必要と考えている。
3	こどもたちへの安心安全の療育の提供	・大きな事故にならないように、毎日ヒヤリハットを出し合い共有している ・緊急時対応について毎月の避難訓練と2ヶ月に1回医療的ケア児想定し、外部の講師の助言をもらい緊急対応訓練を行っている	緊急対応時にしっかり職員が動き、こどもたちの安全が守れるように取り組んでいく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のこどもたちとの交流	新型コロナウイルスが発生以前は地域の保育園や児童館に行き交流を行っていた。その後、地域との交流の再開について検討していなかった	今年度は1回ではあったが児童館のイベントに職員と園児で参加することができた。来年度は、地域の保育園との交流保育の再開を検討している。
2	より丁寧なかかわりが必要な子どもたちの理解	こどもの発達や障がい特性、医療的ケア等について、職員の経験年数や個人の理解にばらつきがある。	専門職としてこどもの発達や障害、医療的ケア等を含めて職員全体の育成を内部研修や外部研修等でおこなっていく。
3			